

平成20年度後学期 学生による授業評価アンケート調査（最終）
「アンケート結果に応じて」

所属部局	人文学部		氏名	平岡 義和
講義コード	2312009010		講義名	共生の社会学
開講曜日	金曜日	9・10時限	○専門科目 ・ 全学教育科目	
授業回数	14 回	休講回数	0 回	補講回数 0 回 受講登録者数 80 人

成績評価に際し注意した事項

評価は、授業内容要約レポートと課題レポートによって行った。前者は、授業内容を的確に理解しているかという点を、後者は、授業で提示した分析枠組みを用いて、データを示しつつ論を展開できるかという点を評価のポイントとした。

報告内容

この授業に関して評価アンケートを実施したのは今回が初めてである。全体として評価が高く、満足度も高かったのは、喜ばしい。

満足率の低かったのは、「板書が読みやすい」「学習の秩序を保とうとしていた」の2項目である。前者は、板書を汚いのでレジメを配布する旨、アナウンスしているし、満足度項目との相関もないので、特に対応は考えない。しかし、後者は、満足度との相関はないものの、「先輩のお菓子を食べる音が気になった」とのコメントも寄せられており、率直に反省したい。出欠をとっていないので、出席している学生の多くは、まじめに受講しているが、一部そうでない学生もいたことも事実である。ただ、少なくとも私語はなく、授業をする上では支障は感じなかった。それでも、そうした受講者の存在が気になる学生がいることを意識して、受講態度にも気を配って、授業を展開したい。

次に、重要度が比較的高いが、やや満足率が低い項目が二つあった。一つは、「学生の反応を確かめながら講義をしていた」という項目である。もう一つは、「学生の質問・相談に応じる姿勢があった」という項目である。両者とも、満足率は85%程度であり、必ずしも低いとは言えないし、具体的な指摘がないので、どのように改善すべきか、悩むところである。特に、質問などについては、初回の授業のレジメに、質問提出ボックスを設置し、メールでも質問を受け付けるとともに、質問した受講生に加点することを明示し、質問を奨励している。しかしながら、質問を寄せてきた学生は皆無である。他の授業でも、質問が寄せられた場合は、必ず次の時間に答えるようにしており、質問を受ける意思は示しているつもりである。もちろん、授業の最後に質問カードなどを配って、記入させるという方法も考えられる。ただ、正直に言えば、そうした方法をとらなくとも、疑問を感じたら、自ら質問を発するという積極的な姿勢を見せて欲しいと思っている。講義科目であっても、受け身ではなく、そうした能動的な態度を見せて欲しいと考えるのは、過大な要求なのだろうか。

とはいえ、こうした反応がある以上、反応の確認、質問の受付ということで、次年度以降、何回かレスポンスカード方式を取り入れることも検討したい。